

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：パステルパレット	種別：生活介護
代表者氏名：鈴木康弘	定員（利用人数）： 20名（70名）
所在地：〒252-0226 相模原市中央区陽光台7-10-14	
TEL：042-777-7327	ホームページ： <a href="http://www.tomoni.or.jp/pastelpalette/index.html">http://www.tomoni.or.jp/pastelpalette/index.html</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2006年（平成18年）10月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 県央福祉会	
職員数	常勤職員：10名 非常勤職員：14名
専門職員	（介護福祉士）5名 （社会福祉士）2名
	（看護師）5名 （精神保健福祉士）2名
	（柔道整復師）1名
施設・設備の概要	（居室） （設備等）
	ケア室：1 トイレ
	機能訓練室：1 エレベーター
	浴室：2 入浴リフト
	相談室：3
	和室：1 医務室：1

③理念・基本方針

運営法人である県央福祉会は理念として

- 1.共生社会を目指します。
  - 2.先駆的で開拓的な事業を展開します。
- の二点です。

この理念の達成のため

- 1) 人権尊重とサービスの向上
  - 2) インフォームドコンセント及びエンパワーメントを大切にした利用者主体の支援
  - 3) 地域との共生
  - 4) ニーズの多様化複雑化への対応
  - 5) コンプライアンスの徹底
  - 6) 説明責任の徹底
  - 7) 人材確保育成
  - 8) ガバナンスの強化
  - 9) 財政基盤の安定化
  - 10) 国際化
  - 11) 積極的な社会貢献活動への取り組み
- の11項目の基本方針をあげています。

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

相模原市中央区の南側の村富線に面した生活介護事業所です。10代から最高齢72歳までの、障がい区分6の方が半分以上という重度の方が多く利用されている施設で、車椅子使用の方が95%、約半数の方が食事介助を受けています。1日の利用定員は20名ですが、それを大幅に上回る数の方が利用しています。

パステルパレットには大小二つの入浴場があり障がい特性により使い分けています。自宅での入浴が難しい方に清潔保持と入浴を楽しめる支援を行っています。

また柔道整復師による専門的視点による機能訓練・施術・カウンセリングを行っています。また、当年度よりリラクゼーションスペースを設置し、重症心身障がい者の方々を主に、車椅子から降りてゆっくりリラックスできる空間を配備しました。その他、ポッチャ・キャッチボールなど楽しみながら身体を動かす場面を設定しています。

日中活動としてPC作業グループがあり、名刺・パンフレット・写真の現像・年賀状作成・ホームページ作成等々、パソコンを使用したさまざまな作業を展開しています。利用者に「仕事」として向き合ってもらい、社会参加・機能の再獲得という面からアプローチしています。

さらに今後更にニーズの高まる医療的処置・行為を必要な方々に安心して利用できるよう一日平均3名以上の看護師を配置しています。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年5月16日（契約日）～ 令和4年11月15日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2019年度）

#### ⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)記録システム・無線により利用者の安全・安心を確保しています

利用者の身体状況や生活状況などは、法人が設定している記録ソフトに記録しています。記録はタブレット・スマートフォン端末から随時入力することができるため、記録の入力漏れや、間違いもなく、職員の業務負担軽減にもつながっています。利用者が施設を利用する際は計画の実施状況などすべて記録されています。また、職員一人ひとりに無線が配布されており、利用者が施設内を移動・活動する際は常に情報を共有することができます。利用者のトイレ利用時もその場で共有でき、利用者のプライバシーを守りつつ、安全も保障しています。記録システム・無線の利用により、利用者の細かな情報をリアルタイムで共有することができ、統一された支援が提供されています。

2)利用者の自己決定と選択性、主体性を尊重しています

利用者の意向を尊重し、利用時の活動プログラムの内容や選択プログラムのコース等、利用者自身の自己決定による活動が実施されています。家族向けの事業所の発行誌「パレットニュース」は、パソコングループ（主にパソコンでの資料作成や掲示物、名刺作成）の利用者が主体的に作成しています。また、職員の名刺は利用者が作成しており、名刺交換の際に話題とすることで外部とつながるきっかけとなり、名刺交換時のエピソードを利用者に伝えることで利用者のモチベーションアップにもつながっています。さらに、テーブルに飲み物のメニュー表を用意し、利用者がその日の気分で飲み物を選べる工夫もしています。利用者が選択に対して自己決定できるようにし、主体的に過ごせるよう努めることで、より良い支援が提供されています。

3)施設長の強いリーダーシップのもと、職員全員体制で生活介護に取り組んでいます。施設長がプレイングマネージャーとして現場に入ること、利用者・家族のニーズに直接向き合い、職員にOJTのみならず目指すべき支援のありかたを行動で伝えていきます。職員数が足りない現状ですが、パートタイム職員の採用は、支援の質が担保できないことから懐疑的です。事業所では日中活動に柔道整復師による機能訓練を行なっています。OT（作業療法士）やPT（理学療法士）による患部にスポットを当てた訓練にとどまらず、慢性的な症状に対する施術が利用者に好評で、施術時間の調整を行っています。看護師は1日平均3名以上配置しており、医療的処置・行為を行っています。支援員をはじめ専門職員も含めて全員で介護を行う体制をとっており、施設長の強いリーダーシップのもと、チームワークを高めています。

#### 4)施設の内部・外部におけるリスク対策が望まれます

車いすを使用する利用者が95%という状態です。また建物の構造や人員配置の観点から侵入者に対する防御・避難などのリスク想定が行われていません。浴室のリフト装置が使用中に故障した事例もあります。設備の定期的なメンテナンスとリスク想定対策が求められます。あらゆる場面でのリスクの発生確率と発生した際の重要性を見直すことが期待されます。

### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

家族会や利用者会を組織化することは難しいですが、事業計画やその他周知事項に関して利用者さん、ご家族に向けた丁寧な説明を心掛けていきます。館内掲示の方法一つ取っても、拡大コピーして見やすくする・画鋏を使わない。など利用者さんが安心して利用できる空間創り進めていきます。

地域交流はウィズコロナでの新たな関わり方を模索していきます。今年度は昨年などと比べ、徐々にボランティアの方や大学高校生の実習も増やすことが出来ました。利用者さんの表情にも心なしか笑顔が増えてきたように感じています。一期一会の出会いを大切に出来るよう、今後もコロナの動向を気にしながら実習やイベント(プログラム)増加に向け、職員間で話し合っている所です。

利用者さんやご家族の気持ちを受け止めるための取り組みに関して、職員一同考える良い機会となりました。今までは職員・利用者さんといった直接的な関りの中から改善に努め、支援を行ってきましたが、今回の第三者評価でアンケートからも利用者様のお気持ちを知ることが出来たことは事業所の財産であると感じています。手厳しいご意見も頂きましたが、アンケートは普段言葉にして言い辛いことを表出する手段であると、改めて感じました。頂いたご意見は職員間で十分に話し合いを重ね、さまざまな事を改善していきたいと思えます。

「みんなの声」を含め、アンケートの実施以外にも、利用者さんご家族の気持ちを受け止めるツールを模索する必要があると感じました。

侵入者に対する訓練に関しては、他事業所の取り組みを参考にしながら行っていきます。年4回の避難訓練に加え、有事に備えた職員の動きを明確にしていきます。身体拘束の手続きに関しても、利用者さん・ご家族に誤解を招くことがないように、皆様に十分且つ丁寧な説明を実施し計画を作成します。不備のある館内設備に関しては、優先順位を定め利用者さんが不便な思いをしないように改善を急ぎます。

⑧第三者評価結果  
別紙2のとおり